

絵入本ワークシヨップVの開催にあたって

絵入本学会 代表
関西大学 教授

山本登朗

実践女子大学文芸資料研究所の佐藤悟、横井孝両氏によって企画され、隔年ごとに実施されてきた「絵入本ワークシヨップ」も、今回で第五回、つまり一〇年目を迎える。今回は、会場校関西大学の元教授でこの方面の大先輩でいらつしやる肥田皓三先生に特別にお願いして、上方の子供絵本についてご講演いただけることになった。ご承引くださった肥田先生のご厚情に、参加者を代表して心より御礼申し上げます。

この一〇年間、いわゆる「絵入本」に関する研究は、さまざまな点で大きく進展してきた。美術史研究と古典文学研究は、かつては別々の研究分野として互いに断絶していた感があつたが、この二つの領域が協力し合うことによつてはじめて絵入本の総体としての検討は可能になる。そのためには、文学の研究者が文章だけでなく挿絵の持つ表現性にも目を向けることが必要であつた。また一方、美術史研究がいわゆる名作主義から脱却して、凡庸で粗雑な作品も多いさまざまな絵入本の挿絵の存在をそれなりに評価する視点を持つことも求められた。この一〇年は、これまで

一部の先達だけが持ち得ていたこのような視点を、多くの研究者が共有できるようになった、そんな変貌の一〇年だったと言つてよいだろう。

また、絵入本は言葉だけでなく絵が入っているために、日本語を十分に理解できない外国人のコレクターや研究者にも注目されることが多く、その結果早い時期から数多くの資料が海外に持ち帰られ、浮世絵と同じように、日本国内以上に高い評価を得ることも多かった。そのような事情から、絵入本の研究は当初から国際的な要素を強く持つてきたが、この一〇年の間に、その傾向はますます強まりつつあると言つてよい。

今回は、これまでやや近世に偏りがちだった発表内容に、中古中世の文学作品とも関わる要素をできるだけ加えることにつとめ、より多角的な視点から絵入本を考える機会になることをめざした。さまざまな分野の研究者が領域を越えて切磋する場として、今回の「絵入本ワークショップ」が充実した成果をあげることが願つてやまない。

絵入本学会と絵入本ワークショップ

実践女子大学 教授 横井 孝

「絵入本ワークショップ」は、当初科学研究費補助金に基づく企画として発足した。第一回は宮城県仙台市博物館ホール、第二回は東京渋谷の実践女子学園、第三回は立川での新装間もない国文学研究資料館、第四回は奈良の大和文華館において、隔年に開催された。いずれも実践女子大学芸資料研究所が企画運営をおこなったものである。

その間、「絵入本」への学際的な関心が高まり、国際的な拡がりも併せ諸方面の注目も浴びるようになった。いわゆる若手のみならず、中堅の研究者、果ては重鎮とも認められる方々の発表が相次ぎ、いまや一大学の一部局が独り決めるような形での運営ではまかないきれない大きさを持つようになっていく。

そこで第五回に先だって関係者が集まり、運営の中核として「学会」を立ち上げることとした。通常の学会の閉鎖性を嫌い、自由な開かれた「学会」にしたい——。その原動力となるのが、やはり「絵入本ワークショップ」である。

山本登朗氏（初代代表者）の序文にあるように、今回は先鞭をつけるために対象の時代を拡大し、中古中世から近

世までの研究者を募った。

この方針は今後さらさらに拡充されるはずである。さらに、第四回の際の序文でお約束した「書籍の形態での展開」を促進してゆくことになるだろう。この「学会」「ワークショップ」を守り育てるのは、「絵入本」に関心を持つ諸賢のご協力以外にはありえない。分野・年齢・所属その他のしがらみを越えた、さまざまな方面の方々のご参集を乞いたいと思う。

絵入本学会役員

■運営委員

山本登朗（代表、関西大学教授）

クリストフ・マルケ（フランス国立東洋言語文化研究所長・日仏会館フランス事務所所長）

田中 登（関西大学教授）

中谷伸生（関西大学教授）

服部 仁（同朋大学教授）

山本 卓（関西大学教授）

ロバート・キャンベル（東京大学教授）

佐藤 悟（実践女子大学教授）

横井 孝（実践女子大学教授）

■編集委員

山本 卓

クリストフ・マルケ

服部 仁

山田和人（同志社大学教授）

横井 孝

絵入本ワークショッププログラム

期間 平成二四年二月八日（土）九日（日）

会場 関西大学第一学舎三号館A・V・B教室

（〒五六四一八六八〇 大阪府吹田市山手町三丁目三番三五号）

一二月八日（土）

■開会の挨拶

関西大学 山本登朗

■研究発表

絵入本から振り返る『徒然草』

大阪府立大学（院） 池上保之

『竹取物語』『病み臥す貴公子』を読む―多義性と象徴性―

花園大学 曾根誠一

■特別講演

上方こども絵本雑談

関西大学元教授 肥田皓三

一二月九日(日)

■研究発表

国芳の絵本にみる画題選択―『風俗大雑書』と『国芳雑画集』をめぐって―

関西大学(院) 中山創太

絵入根本の造本について―享和年間を中心に―

山口県立大学 木越俊介

画かれた河東節と一中節―吉原と菅野序遊父子―

慶応義塾大学 日比谷孟俊

〔蝦蟇妖術／大蛇怪異〕 児雷也豪傑譚〕 図考―蛙の折形とその連続―

同朋大学 服部 仁

■昼食

■研究発表

丹羽桃溪の肉筆画について

下関短期大学 高杉志穂

『花陽百人一首大成』小考―付・関西大学図書館所蔵西川祐信絵入版本について―

阪急文化財団 北川博子

伊勢物語歌がるたの図様について

国文学研究資料館 藤島 綾

宗達伊勢物語図色紙の技法と構図について

和泉市久保惣記念美術館長 河出昌之

■閉会の挨拶

実践女子大学 横井 孝